

がん治療で「世界トップ5」へ ～第一三共の挑戦～

第一三共株式会社

代表取締役社長 兼 CEO
奥澤 宏幸

2026年8月30日

将来の見通しに関する注意事項

本書において当社が開示する経営戦略・計画、業績予想、将来の予測や方針に関する情報、研究開発に関する情報等につきましては、全て将来を見込んだ見解です。これらの情報は、開示時点で当社が入手している情報に基づく一定の前提・仮定及び将来の予測等を基礎に当社が判断したものであり、これらには様々なリスク及び不確実性が内在しております。従いまして、実際の当社の業績は、当社の見解や開示内容から大きくかい離する可能性があることをご留意願います。また、本書において当初設定した目標は、全て実現することを保証しているものではありません。なお、実際の結果等にかかわらず、当社は本書の日付以降において、本書に記述された内容を随時更新する義務を負うものではなく、かかる方針も有していません。

本書において当社が開示する開発中の化合物は治験薬であり、開発中の適応症治療薬としてFDA等の規制当局によって承認されてはおりません。これらの化合物は、対象地域においてまだ有効性と安全性が確立されておらず、開発中の適応症で市販されることを保証するものではありません。

当社は、本書に記載された内容について合理的な注意を払うよう努めておりますが、記載された情報の内容の正確性、適切性、網羅性、実現可能性等について、当社は何ら保証するものではありません。また、本書に記載されている当社グループ以外の企業・団体その他に係る情報は、公開情報等を用いて作成ないし記載したものであり、かかる情報の正確性、適切性、網羅性、実現可能性等について当社は独自の検証を行っておらず、また、これを何ら保証するものではありません。

本書に記載の情報は、今後予告なく変更されることがあります。従いまして、本書又は本書に記載の情報の利用については、他の方法により入手した情報とも照合し、利用者の判断においてご利用ください。

本書は、米国又は日本国内外を問わず、いかなる証券についての取得申込みの勧誘又は販売の申込みではありません。

本書は投資家判断の参考となる情報の公開のみを目的としており、投資に関する最終決定はご自身の責任においてご判断ください。

当社は、本書に記載された情報の誤り等によって生じた損害について一切責任を負うものではありません。

【問題①】

第一三共株式会社 って、
どんな会社か知っていますか？

実は、皆様の身近なところで健康を支えている会社です

コーポレートスローガン

イノベーションに情熱を。ひとに思いやりを。
Passion for Innovation. Compassion for Patients.®

設立



2005年9月

三共と第一製薬の経営統合により設立

事業内容



医薬品の研究開発 製造、販売等

連結社員数



20,171名

自社事業拠点



32カ国・地域

グローバル主要製品



抗悪性腫瘍剤

エンハーツ®

抗凝固剤

リクシアナ®

主要研究開発拠点



品川 研究開発 センター

身近な病気から「がん」まで、長年にわたり患者さんを支えてきました

1899年

胃もたれ



消化酵素剤
タカヂアスターゼ®

1986年

解熱・痛み



鎮痛・抗炎症・解熱剤
ロキソニン®錠
(ロキソプロフェン)

1993年

感染症



広範囲経口抗菌製剤
クラビット®
(レボフロキサシン)

2002年

高血圧



高血圧治療剤
オルメテック®
(オルメサルタン)

2008年

筋肉痛・腫れ



経皮吸収型鎮痛・抗炎症剤
ロキソニン®テープ®
(ロキソプロフェン)

2011年

心房細動



抗凝固剤
リクシアナ®
(エドキサバン)

2020年

がん



抗悪性腫瘍剤
エンハーツ®
(トラスツズマブ デルクステカン)

2024年

がん



抗悪性腫瘍剤
ダトロウェイ®
(ダトポタマブ デルクステカン)

2026年

ワクチン

承認取得
(発売準備中)

乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風疹混合
ワクチン
ミムリット®皮下注用

【問題②】

第一三共が成長し続けるために、
何に力を入れていると思いますか？

【答え】 研究開発です。日本発の技術を、世界中の患者さんへ。

日本発→世界中の患者さんへ

ヨーロッパ

パフエンホーフェン（生産・独）

ミュンヘン（研究開発・独）

アルトキルヒ（生産・仏）

中国

上海
（生産・中国）

北米

・ ニューアルバニー
・ ヒリアード
（生産・米）

ボストン
（研究開発）

シャーリー
（生産・米）

サンディエゴ
（研究開発）

南米

アルファヴィレ
（生産・ブラジル）

研究開発（4拠点）

- ・ 品川RDセンター（東京）
- ・ 葛西RDセンター（東京）
- ・ 館林バイオフィーマシューティカルセンター（群馬）
- ・ 平塚製薬技術センター（神奈川）

生産（4拠点）

- ・ 小名浜（福島）
- ・ 館林（群馬）
- ・ 平塚（神奈川）
- ・ 小田原（神奈川）

● 研究開発拠点

● 生産拠点

ADC：抗体薬物複合体 (Antibody Drug Conjugate の略)

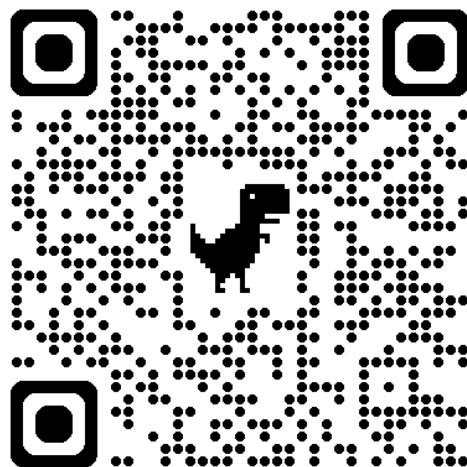
抗体 薬物 複合体

標的となる細胞に
薬を届ける技術

「ADC技術とは」 解説ムービー

検 索

今すぐ
スキャン



ADC技術・解説ムービー（2分26秒）



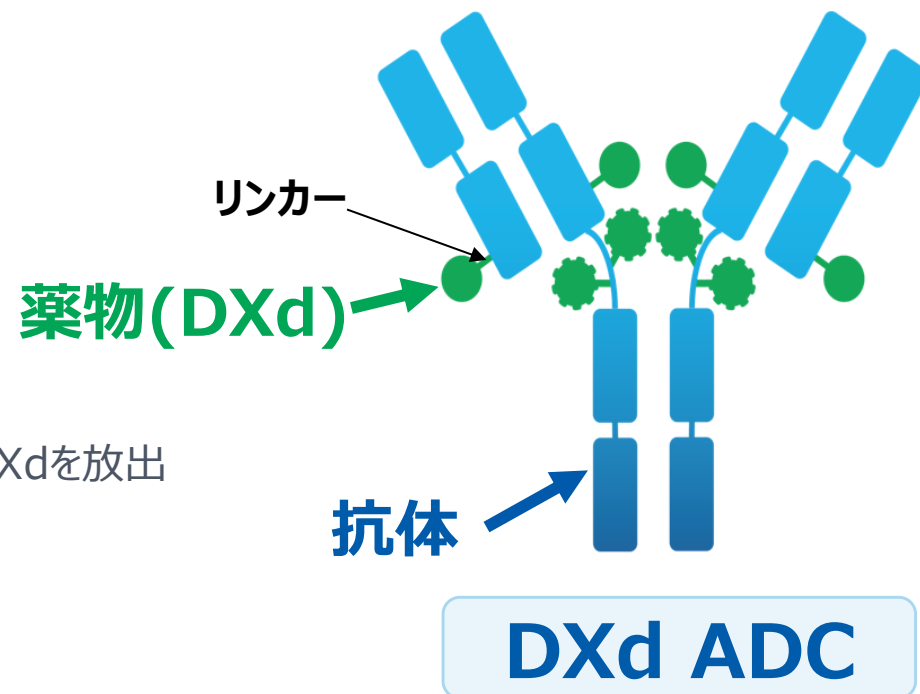
当社独自のADC技術：「DXd ADC」（ディーエックスディー エーディーシー）

独自の薬物（DXd）とリンカー設計が、DXd ADCの3つの特徴を支えています



DXd ADCが評価される3つの特徴

- 1 抗体に薬物（DXd）を搭載**
1つの抗体に最大8個の薬物（DXd）を搭載
- 2 標的となる細胞まで安定して運ぶ**
独自のリンカーにより、血液中では安定し、がん細胞でDXdを放出
- 3 周囲のがん細胞にも作用**
「バイスタンダー効果」が期待される



（リンカー：抗体と薬物をつなぎ、標的となる細胞で薬物を放出する役割）

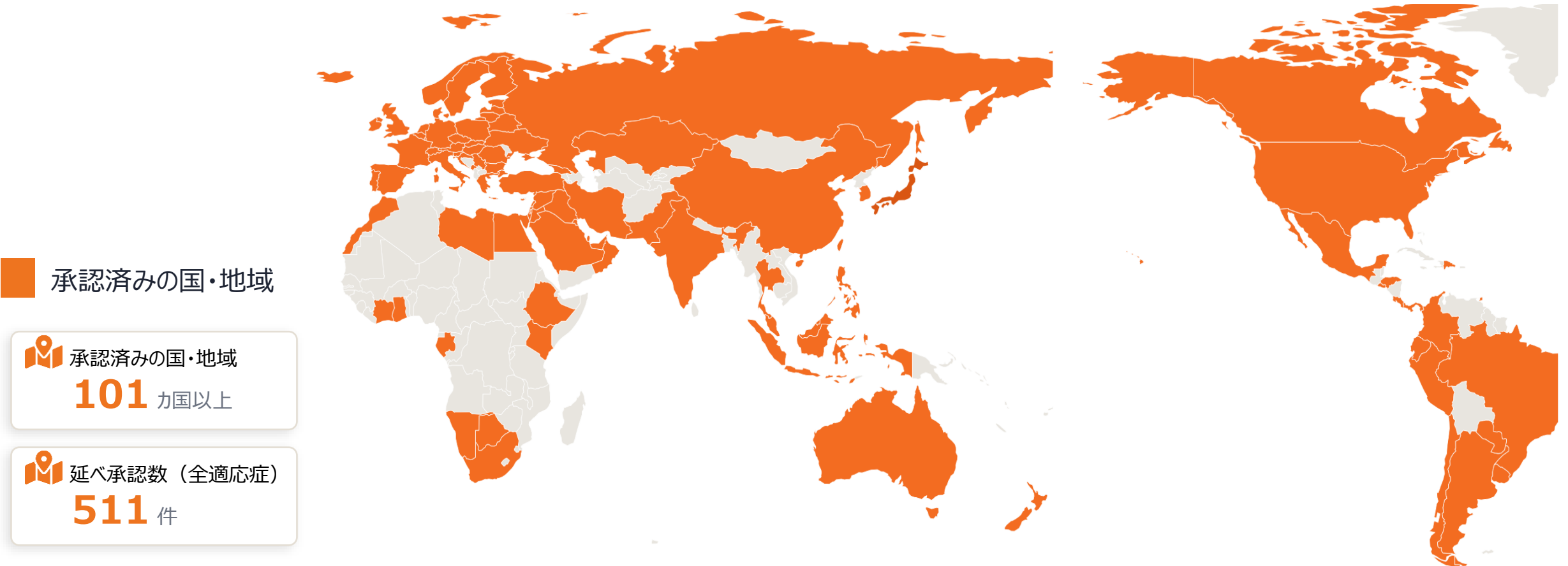
【問題③】 何を示した地図でしょうか？



【答え】 DXd ADCの代表製品「エンハーツ」の承認国・地域

世界の半分を超える101カ国・地域で承認

当社が生み出したがん治療薬は、101カ国・地域で承認されています



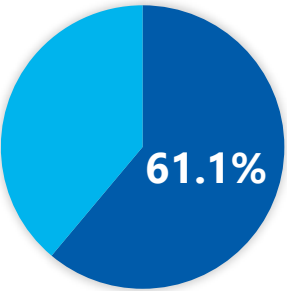
なぜ、当社はがん領域に注力するのか

多くの患者さんが、新たな治療選択肢を必要としている

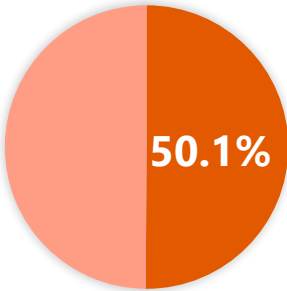
① いまだ満たされない大きな医療ニーズ（アンメットニーズ）

一生のうち、がんになる確率

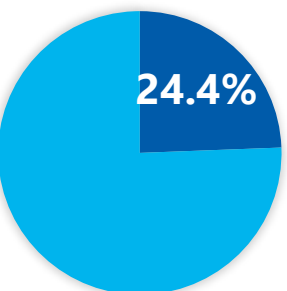
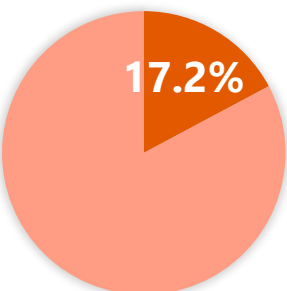
【男性】



【女性】



がんで死亡する確率



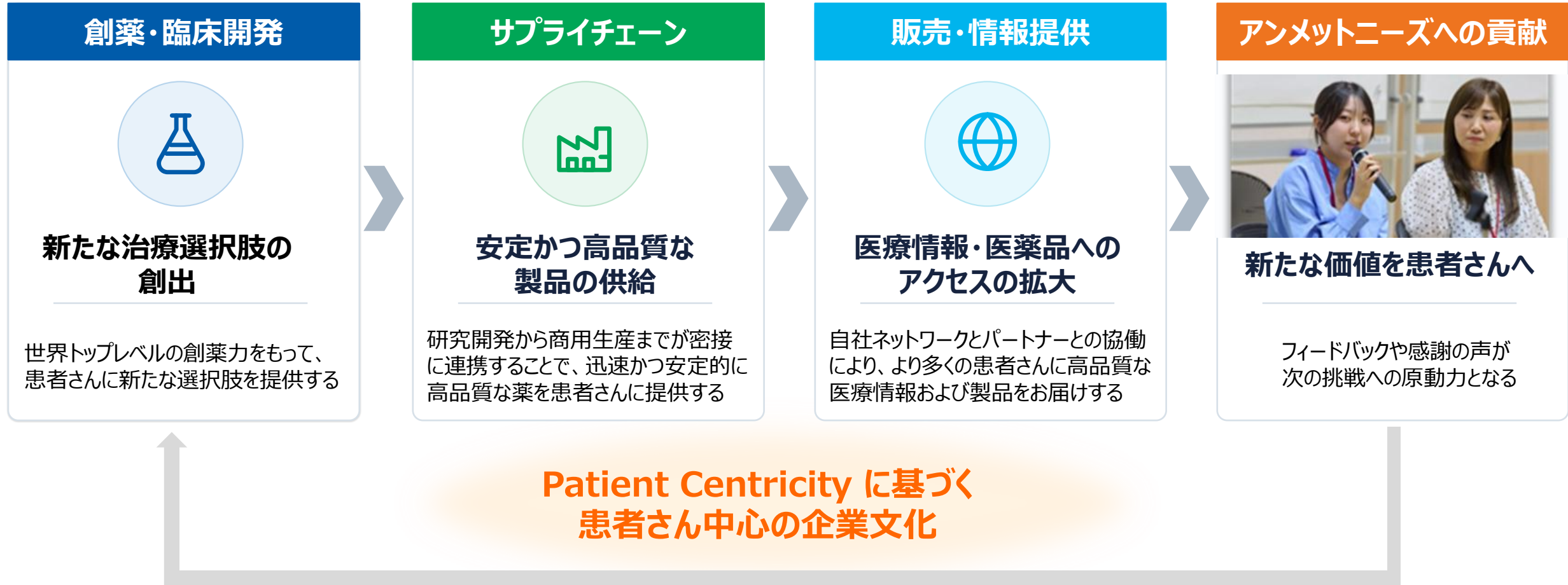
② 継続的な研究開発が求められる重要領域

順位	治療領域	2029年 市場規模予測	年平均成長率 (2025-2029年)
1	がん領域	66.2兆円	11～14%
2	免疫疾患領域	38.9兆円	6～9%
3	糖尿病領域	35.1兆円	4～7%
4	心臓血管領域	17.9兆円	2～5%
5	中枢神経領域	16.4兆円	6～9%
6	呼吸器領域	16.2兆円	3～6%

大きな医療ニーズを背景に、継続的な研究開発が求められている

Patient Centricity × Science & Technology

Patient Centricity（**患者さん中心の考え方**）を活動の基盤に、当社の強みであるScience & Technology（**研究開発・技術力**）でアンメットニーズに応える



患者さんとの価値共創プロセスを循環させることで持続的な価値創造を実現

患者さんへの広がりとともに、エンハーツ®も成長

適応拡大を通じて、発売以来売上収益が拡大



DXd ADC技術を用いたHER2*1抗原を
標的とするADC（抗HER2 ADC）



取得適応症

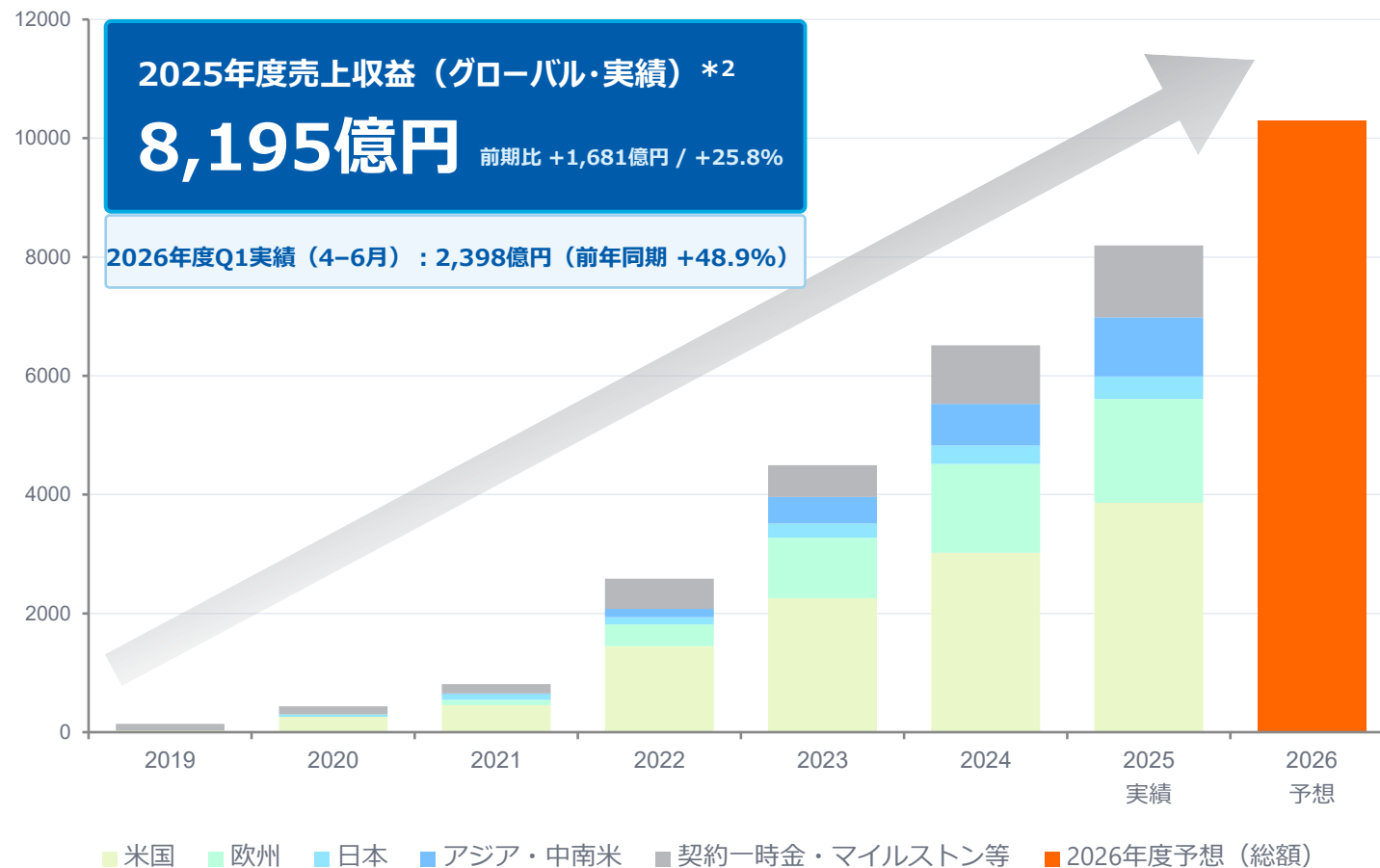
- 乳がん
- 胃がん
- 肺がん
- その他固形がん

承認国・地域

101カ国

（2026年7月現在）

売上収益の推移（地域別、単位：億円）



※グレー部分「契約一時金・マイルストーン等」はアストラゼネカとの契約に基づく一時金・開発／販売マイルストーン収入（製品の実売上とは別建て）

出典：2025年度有価証券報告書、FY2026Q1決算短信・決算説明資料・補足データ（2026年7月31日公表）

*1 HER2：ヒト上皮成長因子受容体2型

*2 売上収益＝製品売上（実際の医薬品販売）＋契約一時金・開発／販売マイルストーン収入等
（2026年度予想は地域別内訳非開示のため総額表示）

新たな治療選択肢を、より多くの患者さんへ。

第一三共の成長戦略は？

2035年ビジョン達成に向けて

がん領域で、世界トップ5へ。

2021-2025年度

第5期中計 **達成**

「がんが強みを持つ基盤を確立」



2026-2030年度

第6期中計 **現在**

「がん事業拡大フェーズ」



2035年

2035年ビジョン

**がん領域で
世界トップ5へ**

独自のDXd ADC技術を強みに、次の5年間で、がん事業をさらに世界へ広げます。

第6期中期経営計画：2030年度計数目標

売上収益

3兆円 以上

営業利益

6,000億円 以上

EPS（1株あたりの利益）

260円 以上

2030年度に向けた3つの柱

1

**DXd ADCを、
より多くの患者さんへ届ける**

承認国・地域と対象となる
がんの種類を広げる

2

**DXd ADCに続く、
新たな創薬技術を生み出す**

次の成長を支える技術を
継続的に見いだす

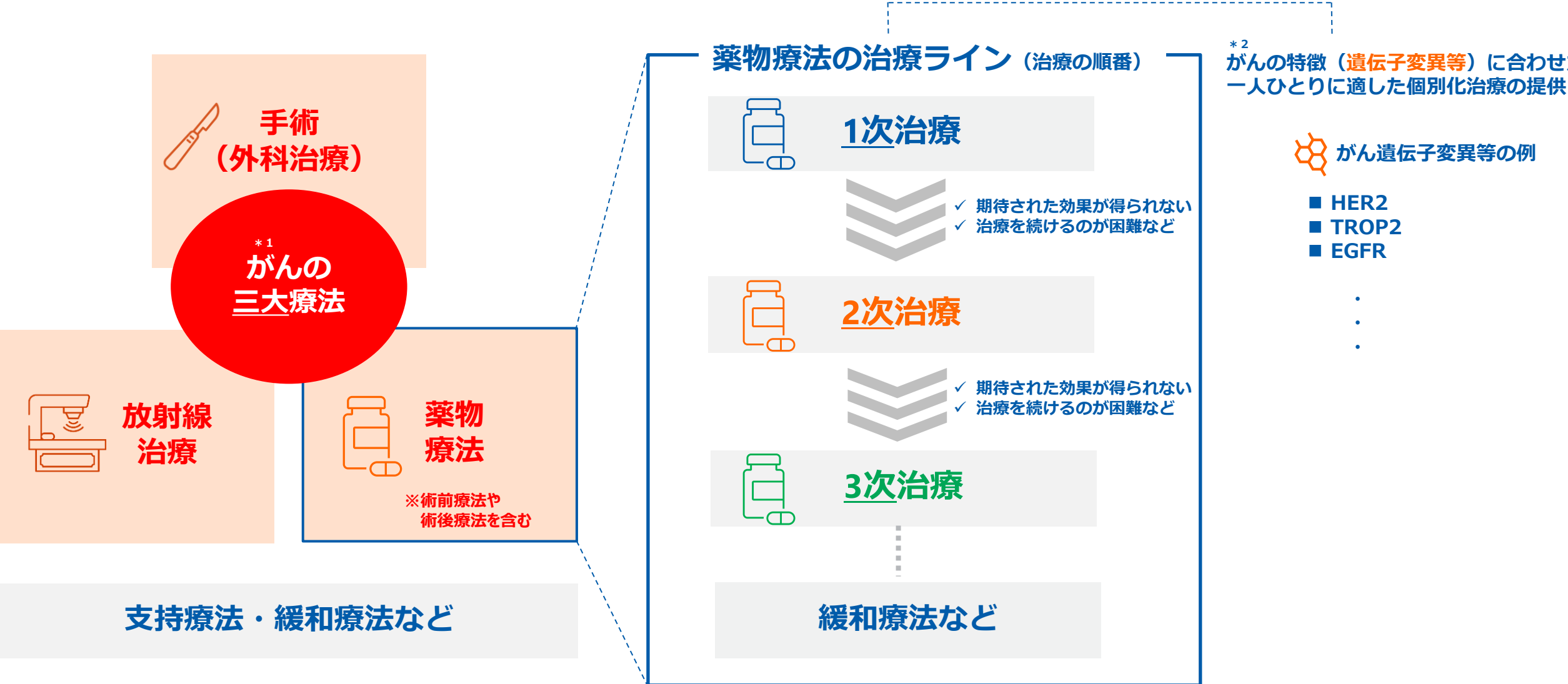
3

**効率を高め、成長を支える
利益を確保する**

研究開発と将来の成長に
投資できる基盤を強化

3つの柱で2030年、その先の成長を支えます

がんの治療法：適応症拡大を通じて、より多くの患者さんへ



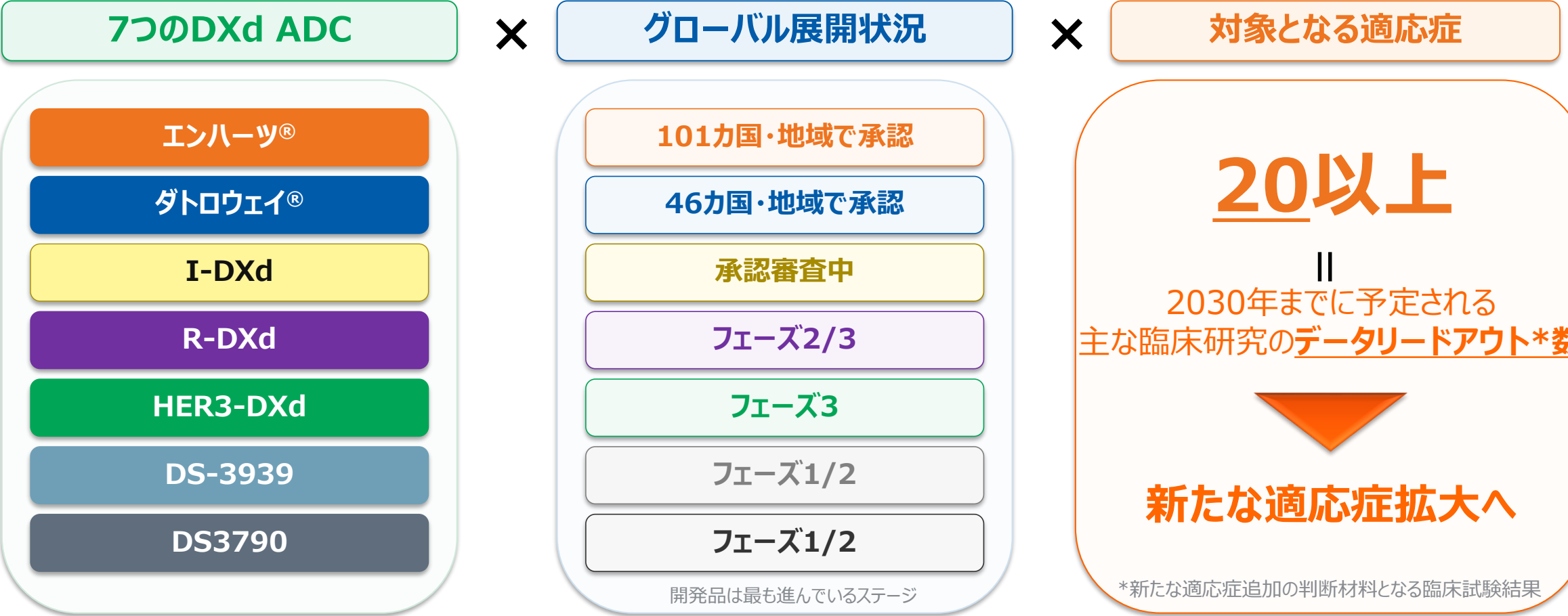
出 典：国立がん研究センターがん情報サービス

* 1 集学的治療
 * 2 がん医療における遺伝子検査

https://ganjoho.jp/public/dia_tre/treatment/drug_therapy/index.html
https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/short_pred.html

7つのDXd ADCをより多くの患者さんへ

製品・開発品 × グローバル展開 × 適応症拡大により、DXd ADCの成長機会を広げる



厚みのあるポートフォリオとグローバル基盤を活かし、適応症拡大を成長へつなげる

患者さんへの価値提供を、持続的な成長へ。

第一三共の株主還元は？

キャッシュ・アロケーション方針（2026-2030年度）： 成長投資と株主還元へのバランスを重視



*株主資本から「その他の資本の構成要素（主に株価・為替により変動する項目）」を除いた「調整後株主資本」をもとに算出したDOE。

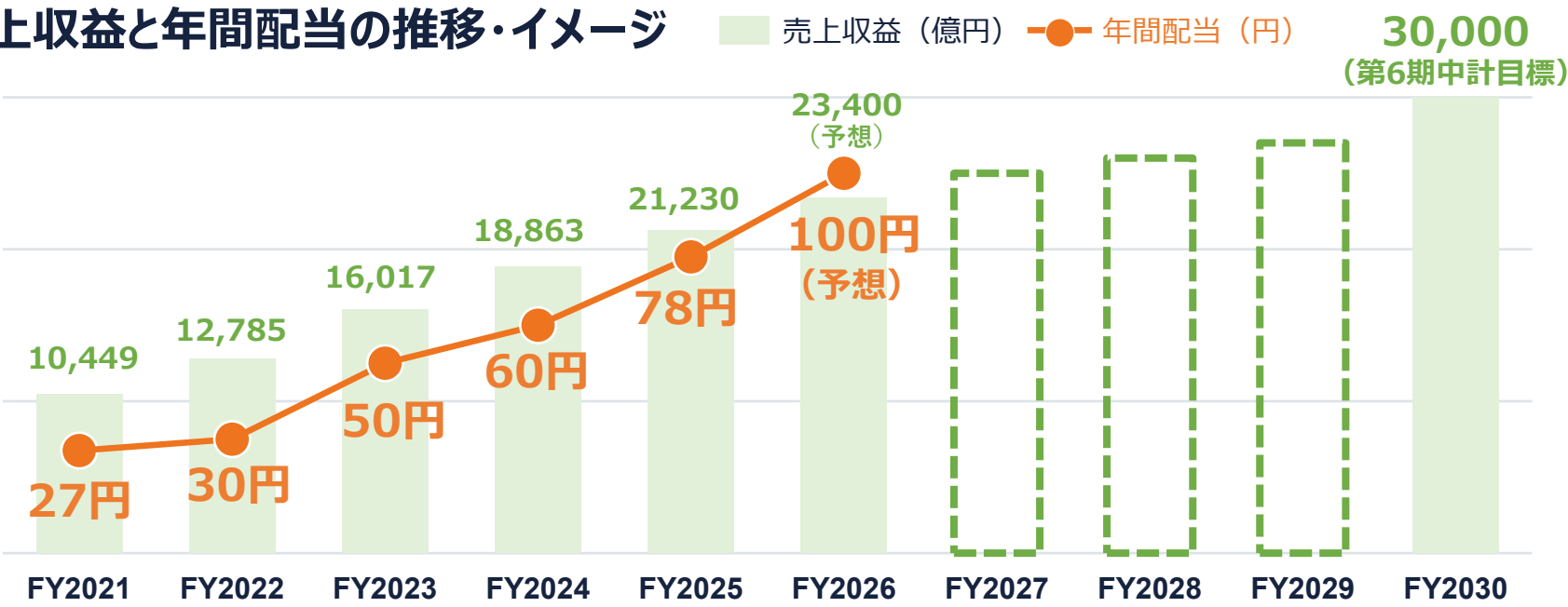
第6期中計の株主還元方針

売上収益の成長を、成長投資と安定的・継続的な株主還元につなげます

◆ 累進配当（配当の維持、または増配していく方針）

◆ 調整後DOE10.0%以上（毎年度）
株主資本を基準に、安定的な配当を行うための指標

売上収益と年間配当の推移・イメージ



※2026年度の年間配当は100円予想。2027年度以降の配当額は未定のため表示していません。売上収益と配当は機械的に連動するものではありません。

※売上収益：2021～2025年度は実績、2026年度以降は中期経営計画上の数値。

出典：第6期中期経営計画資料、決算説明資料



**第一三共グループは世界中の人々の
健康で豊かな生活に貢献してまいります**

